

をすくひ我がいささほり我をさくへたり われ怒によりてろくの民をよみおさへ急患によりてかれ
 らを酔しめかれらの血を地に流れしめたり ○ われりエホバのわれらに施したまへる各種のめぐみと
 の聖とをかつりつけ又その憐愍にまたがひてイセラエルの家にほどこし給ひ
 たる大なる恩寵をかたり告ん エホバのひたたまへり誠にかれらにわが民あり、虚偽をせざる子輩なりと
 敬てエホバにかれらのために救主とありたまへり かれらの艱難のときハエホバもやみ給ひてその面
 前の僕をもて彼等をすくひ、その愛と憐愍とによりて彼等をあがなひ彼等をもたげ昔時の日つねに
 僕等をいだけたまへり 然るにかれらに憐愍をらしめりてその聖靈をらしめしめたる故にエホバ翻然かれらの仇と
 なりて自らこれを攻たまへり 爰にその民にしへのモイセの日をおもひいでて曰けるハ、かれらどう
 の罪の牧者とを海より携へわげし者いつこにありや、彼等のなかに聖靈をかきしものハ何處にありや
 光のかがひをモイセの右にゆかしめ彼等のまへに水をさきて自らどしへの名をつくり 彼等をみ
 ちびきて馬の野をはしるがごとく躡りて淵をすきしめたりし者いつこに在りや、谷にくだる家畜ので
 どくにエホバの靈かれらをしていこせ給へり、主よなんぢの期おのれの民をみちびきて榮光の名をつくり
 給へり ねがはくハ天より僕等にはしるの榮光あるさまき居所より見たまへ、なんぢの熱心となんぢの
 大能あるみわざを今いつこにありや、なんぢの切なる仁慈と憐愍とをいさへられて我にあらはれず
 汝らわれらの父ありアブラハムわれらを御衆、イセラエルわれらを認めし、されどエホバよ汝らわれら
 の父なり、上古よりなんぢの名をわれらの贖主とせしめり、エホバよ何故にわれらをなんぢの道より離れ
 せしめしめ我儕のこころを頑固にして汝を畏れざらしめたまふや、願くハなんぢの僕等のためになんぢ

イ 四百五十六
 九 七十一
 十 七十一
 十一 七十一
 十二 七十一
 十三 七十一
 十四 七十一
 十五 七十一
 十六 七十一
 十七 七十一
 十八 七十一
 十九 七十一
 二十 七十一
 二十一 七十一
 二十二 七十一
 二十三 七十一
 二十四 七十一
 二十五 七十一
 二十六 七十一
 二十七 七十一
 二十八 七十一
 二十九 七十一
 三十 七十一
 三十一 七十一
 三十二 七十一
 三十三 七十一
 三十四 七十一
 三十五 七十一
 三十六 七十一
 三十七 七十一
 三十八 七十一
 三十九 七十一
 四十 七十一
 四十一 七十一
 四十二 七十一
 四十三 七十一
 四十四 七十一
 四十五 七十一
 四十六 七十一
 四十七 七十一
 四十八 七十一
 四十九 七十一
 五十 七十一
 五十一 七十一
 五十二 七十一
 五十三 七十一
 五十四 七十一
 五十五 七十一
 五十六 七十一
 五十七 七十一
 五十八 七十一
 五十九 七十一
 六十 七十一
 六十一 七十一
 六十二 七十一
 六十三 七十一
 六十四 七十一
 六十五 七十一
 六十六 七十一
 六十七 七十一
 六十八 七十一
 六十九 七十一
 七十 七十一
 七十一 七十一
 七十二 七十一
 七十三 七十一
 七十四 七十一
 七十五 七十一
 七十六 七十一
 七十七 七十一
 七十八 七十一
 七十九 七十一
 八十 七十一
 八十一 七十一
 八十二 七十一
 八十三 七十一
 八十四 七十一
 八十五 七十一
 八十六 七十一
 八十七 七十一
 八十八 七十一
 八十九 七十一
 九十 七十一
 九十一 七十一
 九十二 七十一
 九十三 七十一
 九十四 七十一
 九十五 七十一
 九十六 七十一
 九十七 七十一
 九十八 七十一
 九十九 七十一
 百 七十一

とくかりぬ
 の産業ある支派のために歸りたまへ、汝のきよきたみ地を受けて久しからざるにわれらの敵なんぢの聖所
 をふみにじれり、我儕ハなんぢに上古より治められざる者のごとくなんぢの名をもて稱はれざる者ので
 どくかりぬ
 願くハなんぢが天を裂てくだり給へ、なんぢのみにまへに山々なるひ動かんとせよ、火の
 柴をもてし火の水を沸すがごとくして降りたまへ、かくて名をなんぢの敵にあらはし、もろくの國をな
 さんぢのみにまへに戦慄かためたまへ、汝われらの逆料かたはざる懼るべき事をおこなひ給ひしときに降り
 たまへり山々ハその前にふるひいでけり、上古よりこのかた汝のほかに何なる神ありて僕等みたる者に
 かゝる事をかこなひや、いまだ聽すいまだ耳にいらま、いまだ目にみじことなし、汝らよちこびて義を
 おこなひ、なんぢの途にありてなんぢを紀念するものを迎へたまへ、禱しなんぢが怒たまへり、われらハ罪
 を深かせり、かゝる状態のごと既にひびきし我儕のかて救へざるを得んや、我儕ハみみ深からざる物のご
 とくかり、われらの義のごとく汚きたる衣のごとし、我儕ハみみ深からざる物のごとし、枯れ、われらのごとし
 まハ暴風のごとくわきらを吹去れり、なんぢの名よよ者あく、みづから顧みて汝によりてざる者あし、
 なんぢの面をおほひてわれらを顧みたまはず、われらが罪曲をもてわれらとを消失せしめたまへり、されど
 エホバよ汝らわれらの父なり、われらハ泥塊にしてなんぢの工なり、われらハ皆なんぢの御手のわざな
 り、エホバよいたく絶たさふなかれ永くよこしをを紀念したまふなかれ、願くハ願みたまへ、我儕ハみなな
 さんぢの民なり、汝のきよきたみ地ハシオンハ野とあり、エラエルハ荒廢れたり、われらの先祖が
 さんぢを讀たへたる榮光ある我儕のきよきたみ宮ハ火にやかれ、我儕の去たひたる處にてどくく荒はてた

イ 四百五十六
 九 七十一
 十 七十一
 十一 七十一
 十二 七十一
 十三 七十一
 十四 七十一
 十五 七十一
 十六 七十一
 十七 七十一
 十八 七十一
 十九 七十一
 二十 七十一
 二十一 七十一
 二十二 七十一
 二十三 七十一
 二十四 七十一
 二十五 七十一
 二十六 七十一
 二十七 七十一
 二十八 七十一
 二十九 七十一
 三十 七十一
 三十一 七十一
 三十二 七十一
 三十三 七十一
 三十四 七十一
 三十五 七十一
 三十六 七十一
 三十七 七十一
 三十八 七十一
 三十九 七十一
 四十 七十一
 四十一 七十一
 四十二 七十一
 四十三 七十一
 四十四 七十一
 四十五 七十一
 四十六 七十一
 四十七 七十一
 四十八 七十一
 四十九 七十一
 五十 七十一
 五十一 七十一
 五十二 七十一
 五十三 七十一
 五十四 七十一
 五十五 七十一
 五十六 七十一
 五十七 七十一
 五十八 七十一
 五十九 七十一
 六十 七十一
 六十一 七十一
 六十二 七十一
 六十三 七十一
 六十四 七十一
 六十五 七十一
 六十六 七十一
 六十七 七十一
 六十八 七十一
 六十九 七十一
 七十 七十一
 七十一 七十一
 七十二 七十一
 七十三 七十一
 七十四 七十一
 七十五 七十一
 七十六 七十一
 七十七 七十一
 七十八 七十一
 七十九 七十一
 八十 七十一
 八十一 七十一
 八十二 七十一
 八十三 七十一
 八十四 七十一
 八十五 七十一
 八十六 七十一
 八十七 七十一
 八十八 七十一
 八十九 七十一
 九十 七十一
 九十一 七十一
 九十二 七十一
 九十三 七十一
 九十四 七十一
 九十五 七十一
 九十六 七十一
 九十七 七十一
 九十八 七十一
 九十九 七十一
 百 七十一

バ^一いひたまふ。我また彼等のうちより人をえらびて祭司とし^二レヒとせんと^三。エホバ^三宣^二縮^一くわが造らん
 とする^三新^二しき^一天^一とわたらし^二地^一とわが前にな^三ぐとよ^二せる^一如^一く^二な^一ん宮^一の^二籓^一と^三な^二ん方^一の名^一ハな^二ぐとよ^一ま
 らん^三。エホバ^三い^二たま^一ふ^三新^二月^一と^二に^一安息日^一と^二に^一する^三人^一わが^二前^一にきたりて^三崇拜^一をなさん^二。かれら出
 て^三われ^一に^二逆^一きたる^三人^一の^二扉^一を^三みん^二。う^一の^二蛆^一と^二か^一す。う^一の^二火^一さ^二す。よ^一う^一の^二人^一に^二い^一み^二ま^一はる^三べし

イ 聖九〇六章六〇六
 九 聖九〇六章六〇六
 十 聖九〇六章六〇六
 十一 聖九〇六章六〇六
 十二 聖九〇六章六〇六
 十三 聖九〇六章六〇六
 十四 聖九〇六章六〇六
 十五 聖九〇六章六〇六
 十六 聖九〇六章六〇六

この地アマトラの祭司の一人なるヒルキヤの子エレミヤの言あり。アモンの子
 ユダの王ヨシヤの附すなちうの治世の十二年にエホバの言エレミヤお臨り。その言またヨシヤの子
 ユダの王ニホヤキムの時おも^一の^二ぞ^一みてヨシヤの子ユダの王ゼデキヤの十一年のをえり^二即ち^一の^三年^一の五月
 エルサレムの民の移られたる時までおいたれり。エホバの言我おのみみて云ふ。われ汝を贖ふべし。と
 りし先お汝をえり^一汝が^二昭^一をい^二で^一ざりし先お汝を聖め^二汝^一をた^二て^一。貴國の預言者となせりと。我こたへける
 一^一。噫^二主^一エホバよ^一。恥^二よ^一われ^二幼^一少^一を^二より^一語る^三こと^一を^二知^一らず。エホバ^三われ^二お^一ひ^二た^一ま^二ひ^一ける^三。汝^一の^二幼^一少^一
 といふ^一勿^二れ^一。すべて我汝を遣す^二と^一ころに^二ゆ^一き^二我^一汝^一を命^二ず^一る^三べ^二し^一。なんぢ^二彼^一等の^三面^一を^二畏^一
 る^一。勿^二れ^一。蓋^二れ^一。汝^一を^二憐^一れ^二に^一お^二り^一て^三汝^一を^二す^一く^二ふ^一べ^二け^一れ^二。汝^一あり^二。エホバ^三い^二た^一ま^二へ^一り。エホバ^三遂^二に^一ろ^二の^一手^一を^二
 べて^一我^二口^一お^二つ^一け。エホバ^三我^二お^一ひ^二た^一ま^二ひ^一ける^三。恥^二よ^一われ^二我^一言^一を^二汝^一の^二口^一に^二い^一れた^三り。みよ^一。我^二け^一ふ^二貴^一民^一の
 うへ^一。ど^二萬^一國^一の^二う^一へ^二お^一た^二て^一。汝^一を^二して^一。或^二ハ^一拔^二き^一。或^二ハ^一覆^二し^一。或^二ハ^一滅^二じ^一。或^二ハ^一覆^二じ^一。或^二ハ^一植^二じ^一め^二ん^一。エホバ^三の
 言^一を^二我^一を^二臨^一みて^三い^二ふ^一。エレミヤよ^一。汝^一を^二み^一る^三。我^一を^二我^一て^二へ^一ける^三。巴^二且^一香^一の^二杖^一を^二み^一る。エホバ^三我^二お^一ひ^二た^一ま
 ひ^一ける^二。汝^一善^二く^一見^二た^一り^三。い^二れ^一。速^二お^一我^一言^一を^二あ^一さ^二ん^一。と^二す^一れ^二。バ^一なり。エホバ^三の^二言^一を^二い^一ふ^三。我^一を^二臨^一みて^三い^二ふ^一。汝
 何^一を^二み^一る^三。我^一を^二我^一て^二へ^一ける^三。ハ^二湖^一騰^一たる^二鏡^一を^二み^一る^三。面^二ハ^一北^一より^二此^一方^一を^二向^一ふ。エホバ^三我^二お^一ひ^二た^一ま^二ひ^一ける^三。
 衆^一北^二より^一あ^二り^一て^三此^二の^一地^一を^二住^一る^三。す^二べ^一て^二の^一者^一に^二きた^一らん。エホバ^三い^二た^一ま^二ひ^一ける^三。われ^二北^一の^二國^一々の^三す^二べ^一て
 の^二族^一を^二よ^一ん^二心^一を^二彼^一等^一きたりて^三。エルサレムの^二門^一の^二入^一口^一の^二周^一圍^一の^三す^二べ^一て^二の^一石^一垣^一お^二よ^一び^二エ^一ダ^一の^三す^二べ^一て^二の^一邑^一々^一
 を^二お^一か^二ひ^一て^三お^二の^一う^一の^二座^一を^二設^一け^二ん^一。われ^二かれ^一らの^三凡^一の^二惡^一事^一の^三た^二め^一に^二我^一轡^一を^二かれ^一ら^三に^二つ^一げ^二ん^一。是^一を^二かれ^一ら^三我^一ら

イ 聖九〇六代生〇六
 十 聖九〇六代生〇六
 十一 聖九〇六代生〇六
 十二 聖九〇六代生〇六
 十三 聖九〇六代生〇六
 十四 聖九〇六代生〇六
 十五 聖九〇六代生〇六
 十六 聖九〇六代生〇六
 十七 聖九〇六代生〇六
 十八 聖九〇六代生〇六
 十九 聖九〇六代生〇六
 二十 聖九〇六代生〇六
 二十一 聖九〇六代生〇六
 二十二 聖九〇六代生〇六
 二十三 聖九〇六代生〇六
 二十四 聖九〇六代生〇六
 二十五 聖九〇六代生〇六
 二十六 聖九〇六代生〇六
 二十七 聖九〇六代生〇六
 二十八 聖九〇六代生〇六
 二十九 聖九〇六代生〇六
 三十 聖九〇六代生〇六
 三十一 聖九〇六代生〇六
 三十二 聖九〇六代生〇六
 三十三 聖九〇六代生〇六
 三十四 聖九〇六代生〇六
 三十五 聖九〇六代生〇六
 三十六 聖九〇六代生〇六
 三十七 聖九〇六代生〇六
 三十八 聖九〇六代生〇六
 三十九 聖九〇六代生〇六
 四十 聖九〇六代生〇六
 四十一 聖九〇六代生〇六
 四十二 聖九〇六代生〇六
 四十三 聖九〇六代生〇六
 四十四 聖九〇六代生〇六
 四十五 聖九〇六代生〇六
 四十六 聖九〇六代生〇六
 四十七 聖九〇六代生〇六
 四十八 聖九〇六代生〇六
 四十九 聖九〇六代生〇六
 五十 聖九〇六代生〇六

耶利米亞記
 第一章
 自一至十六節
 千九百九十二

をすて別の神々香を焚きおのれの手にて作りし物を拜するによる。汝腰に帯して起ちわが汝に命する
 すべての事を御等につげよその面を畏るゝ勿れ否らされ我かれらの前に汝を辱かしめん。禱よわれ今
 日この全國とエズラの王とろの牧伯とろの祭司とろの地の民の前に汝を堅き城、鉄の柱、銅の牆とせり
 彼等なんぢと戦えんとするも汝に勝ざるべし。わが汝とどむにわが汝をすくふべければかりとエホ
 バひいたまへり

第二章

エホバの言我にのみみていふ。ゆきてエホバに仕る者の耳に、ゆきてエホバに欺く人我汝
 につきて汝の若き時懇切なんぢの親をなせしとき、の曠野なる種播ぬ地にて我に従ひしことを憶ゆ
 三 エホバの聖物にしての初に結べる實ありすべし之を食ふもの罰せられ災にあふべし
 エホバ云ひたまへり。ヤコブの家とイスラエルの家の諸の族よ、エホバの言をきけ。エホバかくいひた
 る。エホバ汝等の先祖と我に何の悪事ありしを見て我に遠かり虚き物に去たがひて虚しくなりしや。かれら
 我儕をエホバの地より導きいだし曠野ある岩穴ある荒れたる地旱きたる死の蔭の地人の過ぎる地人
 住まざる地を通らせめしエホバのいつてにわるといはず。われ汝等を導きて園のごとき地にいれ其
 實と佳物をくらとせめたり。然し汝等此處にいり我地を汚し我産業を憎むべきものとなせり。祭司ハ
 エホバ何處にいますといはず。律法をわつかふ者ハ我を知らず。牧者ハ我に背き預言者ハエホバによりて預言
 し益きものに従へり。故にわれ尙汝等とあらしめん。月かんの子孫とあらしめん。エホバのいひたま
 へ。汝等キレムの諸島にわたりて觀よ。また使者をケラにつかせし斯のごとき事あるや否を詳細に察
 せよ。めよ。わが神を神にあらざる者に勇たる國ありや。然るに我民より我を益なき物にかへたり。天よ

五 千八百六十六節
 九 九八〇一節
 一〇 九八〇二節
 一〇 九八〇三節
 一〇 九八〇四節
 一〇 九八〇五節
 一〇 九八〇六節
 一〇 九八〇七節
 一〇 九八〇八節
 一〇 九八〇九節
 一〇 九八一〇節
 一〇 九八一一節
 一〇 九八一二節
 一〇 九八一三節
 一〇 九八一四節
 一〇 九八一五節
 一〇 九八一六節
 一〇 九八一七節
 一〇 九八一八節
 一〇 九八一九節
 一〇 九八二〇節
 一〇 九八二一節
 一〇 九八二二節
 一〇 九八二三節
 一〇 九八二四節
 一〇 九八二五節
 一〇 九八二六節
 一〇 九八二七節
 一〇 九八二八節
 一〇 九八二九節
 一〇 九八三〇節
 一〇 九八三一節
 一〇 九八三二節
 一〇 九八三三節
 一〇 九八三四節
 一〇 九八三五節
 一〇 九八三六節
 一〇 九八三七節
 一〇 九八三八節
 一〇 九八三九節
 一〇 九八四〇節
 一〇 九八四一節
 一〇 九八四二節
 一〇 九八四三節
 一〇 九八四四節
 一〇 九八四五節
 一〇 九八四六節
 一〇 九八四七節
 一〇 九八四八節
 一〇 九八四九節
 一〇 九八五〇節
 一〇 九八五一節
 一〇 九八五二節
 一〇 九八五三節
 一〇 九八五四節
 一〇 九八五五節
 一〇 九八五六節
 一〇 九八五七節
 一〇 九八五八節
 一〇 九八五九節
 一〇 九八六〇節
 一〇 九八六一節
 一〇 九八六二節
 一〇 九八六三節
 一〇 九八六四節
 一〇 九八六五節
 一〇 九八六六節
 一〇 九八六七節
 一〇 九八六八節
 一〇 九八六九節
 一〇 九八七〇節
 一〇 九八七一節
 一〇 九八七二節
 一〇 九八七三節
 一〇 九八七四節
 一〇 九八七五節
 一〇 九八七六節
 一〇 九八七七節
 一〇 九八七八節
 一〇 九八七九節
 一〇 九八八〇節
 一〇 九八八一節
 一〇 九八八二節
 一〇 九八八三節
 一〇 九八八四節
 一〇 九八八五節
 一〇 九八八六節
 一〇 九八八七節
 一〇 九八八八節
 一〇 九八八九節
 一〇 九八九〇節
 一〇 九八九一節
 一〇 九八九二節
 一〇 九八九三節
 一〇 九八九四節
 一〇 九八九五節
 一〇 九八九六節
 一〇 九八九七節
 一〇 九八九八節
 一〇 九八九九節
 一〇 九九〇〇節

この事を驚け懐けいたく悔れよとエホバのいひたまへ。蓋わが民と人たつの悪事をなせり。即ち活る水の源
 なる我をすて自己水溜を掘れり。すなわち填れたる水溜にして水を有たざる者なり。イスラエルと云も
 べなるか家にうまれ、僕あるかいかにして、擄掠となれるや。わが獅子かかれにむかひて哮えり。汝聲をわ
 げて、わが地を荒せり。わが諸邑ハ焼れて住む人なし。ノツとダバエマの諸子も、汝れ頭首の髪をくらえん
 汝れ神エホバは汝を途にみちびきたまへる時に、汝これを棄たるによりて、此事汝にかよふにわらずや。汝
 ナイルの水を飲んとして、エジプトの路にわると何ゆえんや。汝水を取らば、エジプトの路にわると何
 故乎。汝は汝をこらしめ、汝の昔に汝をせめん。斯く汝が汝の神エホバをすて、たると我を畏るごとの
 汝の哀にあらざるを、惡く且つ苦きことなるを、汝見て表るべし。主なる萬軍のエホバのいひ給ふ。汝昔よ
 り、汝の軛をわたり、汝の縛を截ちて、いひける。わが我つかふことをせし、即ち汝すべての高山のうへと、諸の青
 木の下に、妓女のごとき身をわたり。わが汝を植て、佳き葡萄の樹と、かきし、空の種となせしに、いかな
 れ。汝われに向ひて、異なる葡萄の樹の悪き枝にかえりしや。たゞ、以て、嗚呼をもて、自ら濯ひ、またかほくの灰
 汁を加ふるも、汝の惡い、わが前に、汚れなり。主エホバのいひ給ふ。汝いかに、わが我を汚れ、ホバに、從えざりし
 といふことを得んや。汝谷の中の、わが汝を、觀よ。汝のなせしことを、知れ。汝疾走るわが、牛の駢馳にして
 うの途に、さまよへり。汝、曠野に、なれたる野の、牝馬、亦其欲のために、風に、あべくの、欲の、うごき
 は、誰か、これを、よめ、之を、見、て、これを、尋る者、自ら、尋ずるに、あふむ。すの、月の、中、に、之、に、あふべし。汝足を
 つしみて、跳足に、ならざるや。うに、し、喉を、つゝ、と、み、て、渴か、ぬや。うに、せよ。ま、かるに、汝、い、是、を、徒、然、な、り、然、り
 われ、異なる國の者を愛して、これに、從ふあり。と、盗人、汝、執へ、ら、れて、恥辱を、う、くる、あ、ど、く、イスラエルの、家

五 千八百六十六節
 九 九八〇一節
 一〇 九八〇二節
 一〇 九八〇三節
 一〇 九八〇四節
 一〇 九八〇五節
 一〇 九八〇六節
 一〇 九八〇七節
 一〇 九八〇八節
 一〇 九八〇九節
 一〇 九八一〇節
 一〇 九八一一節
 一〇 九八一二節
 一〇 九八一三節
 一〇 九八一四節
 一〇 九八一五節
 一〇 九八一六節
 一〇 九八一七節
 一〇 九八一八節
 一〇 九八一九節
 一〇 九八二〇節
 一〇 九八二一節
 一〇 九八二二節
 一〇 九八二三節
 一〇 九八二四節
 一〇 九八二五節
 一〇 九八二六節
 一〇 九八二七節
 一〇 九八二八節
 一〇 九八二九節
 一〇 九八三〇節
 一〇 九八三一節
 一〇 九八三二節
 一〇 九八三三節
 一〇 九八三四節
 一〇 九八三五節
 一〇 九八三六節
 一〇 九八三七節
 一〇 九八三八節
 一〇 九八三九節
 一〇 九八四〇節
 一〇 九八四一節
 一〇 九八四二節
 一〇 九八四三節
 一〇 九八四四節
 一〇 九八四五節
 一〇 九八四六節
 一〇 九八四七節
 一〇 九八四八節
 一〇 九八四九節
 一〇 九八五〇節
 一〇 九八五一節
 一〇 九八五二節
 一〇 九八五三節
 一〇 九八五四節
 一〇 九八五五節
 一〇 九八五六節
 一〇 九八五七節
 一〇 九八五八節
 一〇 九八五九節
 一〇 九八六〇節
 一〇 九八六一節
 一〇 九八六二節
 一〇 九八六三節
 一〇 九八六四節
 一〇 九八六五節
 一〇 九八六六節
 一〇 九八六七節
 一〇 九八六八節
 一〇 九八六九節
 一〇 九八七〇節
 一〇 九八七一節
 一〇 九八七二節
 一〇 九八七三節
 一〇 九八七四節
 一〇 九八七五節
 一〇 九八七六節
 一〇 九八七七節
 一〇 九八七八節
 一〇 九八七九節
 一〇 九八八〇節
 一〇 九八八一節
 一〇 九八八二節
 一〇 九八八三節
 一〇 九八八四節
 一〇 九八八五節
 一〇 九八八六節
 一〇 九八八七節
 一〇 九八八八節
 一〇 九八八九節
 一〇 九八九〇節
 一〇 九八九一節
 一〇 九八九二節
 一〇 九八九三節
 一〇 九八九四節
 一〇 九八九五節
 一〇 九八九六節
 一〇 九八九七節
 一〇 九八九八節
 一〇 九八九九節
 一〇 九九〇〇節

- 六 摩西五十六卷四三章二節
- 七 申命記三十四卷九章
- 八 申命記三十四卷九章
- 九 申命記三十四卷九章
- 十 申命記三十四卷九章
- 十一 申命記三十四卷九章
- 十二 申命記三十四卷九章
- 十三 申命記三十四卷九章
- 十四 申命記三十四卷九章
- 十五 申命記三十四卷九章
- 十六 申命記三十四卷九章
- 十七 申命記三十四卷九章
- 十八 申命記三十四卷九章
- 十九 申命記三十四卷九章
- 二十 申命記三十四卷九章
- 二十一 申命記三十四卷九章
- 二十二 申命記三十四卷九章
- 二十三 申命記三十四卷九章
- 二十四 申命記三十四卷九章
- 二十五 申命記三十四卷九章
- 二十六 申命記三十四卷九章
- 二十七 申命記三十四卷九章
- 二十八 申命記三十四卷九章
- 二十九 申命記三十四卷九章
- 三十 申命記三十四卷九章
- 三十一 申命記三十四卷九章
- 三十二 申命記三十四卷九章
- 三十三 申命記三十四卷九章
- 三十四 申命記三十四卷九章
- 三十五 申命記三十四卷九章
- 三十六 申命記三十四卷九章
- 三十七 申命記三十四卷九章
- 三十八 申命記三十四卷九章
- 三十九 申命記三十四卷九章
- 四十 申命記三十四卷九章
- 四十一 申命記三十四卷九章
- 四十二 申命記三十四卷九章
- 四十三 申命記三十四卷九章
- 四十四 申命記三十四卷九章
- 四十五 申命記三十四卷九章
- 四十六 申命記三十四卷九章
- 四十七 申命記三十四卷九章
- 四十八 申命記三十四卷九章
- 四十九 申命記三十四卷九章
- 五十 申命記三十四卷九章

恥辱をうけ、彼等よの王の牧伯の預言者みな然り。彼等未あむひて、汝、我父なりといひて、
 た石をかひて、汝、我を生たりといひ、彼等ハ背を我おむけて、其面をわれに、向けざらば、彼等與わあふて
 ざり起て、われを救ひ給へといふ。汝が、かのもの爲お遣りし神のいつておあるや、もし汝、爲謀わあふて、
 かれら汝を救ふを得べ起つべきなり。ハニ、汝よ、汝の神の、數の、數、お、同、つけられ、ハ、汝等、なん、予、我と
 わらうふや、おん、から、ハ、皆、我、お、背、けり、と、エ、ホ、バ、い、ひ、給、ふ、我、が、おん、ち、の、ら、の、衆、子、を、打、し、益、な、かり、汝、等、
 徳治をうけ、汝等、汝、劍、狂、獅子、れ、ごとく、汝等、預言者、を、滅せり。おん、ち、ら、て、は、世、人、よ、エ、ホ、バ、い、言、を
 きけ、我ハ、エ、ホ、バ、い、た、め、に、曠野、を、な、し、や、暗、き、地、に、な、り、し、や、何、故、に、わ、が、民、は、われ、ら、御、御、り、て、復、汝、に、來
 ら、じ、と、い、ふ、や、ろ、れ、處、女、の、ら、の、飾、物、を、忘、れ、ん、や、新、婦、の、ら、を、帯、を、わ、す、れ、ん、や、然、し、我、民、は、我、を、忘、れ、たる、日、
 數へ、つ、た、し、汝、獲、得、ん、と、て、如、何、に、汝、れ、途、を、美、く、す、る、や、さ、ら、ば、な、ら、ち、の、行、ひ、わ、し、事、を、爲、す、に、慣、た、り
 又、た、汝、れ、徧、に、辜、か、き、責、者、れ、生、命、血、め、り、われ、盜、人、は、穿、た、る、所、に、て、之、を、貫、す、し、て、之、を、此、等、上、に、これ
 を、見、る、さ、れ、汝、い、ふ、われ、ハ、辜、か、し、故、に、の、怒、り、か、なら、ず、我、に、臨、ま、し、と、み、よ、汝、れ、罪、を、犯、さ、り、と、い、
 ふ、に、よ、り、我、汝、と、わ、ら、う、ふ、と、し、おん、ち、ら、何、故、に、る、汝、途、を、易、ん、と、て、迅、く、は、し、る、や、汝、ハ、エ、ホ、バ、い、に、恥、辱、を、ら、け
 し、と、く、エ、ホ、バ、い、に、も、亦、恥、辱、を、ら、け、ん、汝、兩、手、を、頭、に、置、て、か、し、て、よ、り、も、出、去、ら、ん、ら、エ、ホ、バ、い、汝、れ、た、れ、し、
 と、ころ、は、汝、者、を、棄、れ、バ、汝、彼、等、に、よ、り、て、望、を、遠、く、と、無、る、べ、けれ、ん、と、い、ふ、に、
 一世、に、い、へ、る、わ、ら、い、も、し、の、妻、を、い、た、ざ、ん、に、去、り、ゆ、き、て、汝、か、の、人、の、妻、と、ら、バ、其、夫、ふ、た、り、が、彼
 小、解、ら、る、べ、け、ん、や、さ、す、ば、其、他、之、身、は、に、汚、さ、ら、ん、や、汝、之、お、ほ、く、の、者、と、汝、途、を、行、へ、り、と、い、ふ、は、汝、れ、
 ぞ、と、エ、ホ、バ、い、ひ、給、ふ、汝、目、を、わ、げ、て、も、ろ、く、の、童、山、を、み、よ、汝、途、を、行、ふ、と、い、ふ、所、に、お、つ、て、い、ら、る、や、汝、と、曠

- 一 申命記三十四卷九章
- 二 申命記三十四卷九章
- 三 申命記三十四卷九章
- 四 申命記三十四卷九章
- 五 申命記三十四卷九章
- 六 申命記三十四卷九章
- 七 申命記三十四卷九章
- 八 申命記三十四卷九章
- 九 申命記三十四卷九章
- 十 申命記三十四卷九章
- 十一 申命記三十四卷九章
- 十二 申命記三十四卷九章
- 十三 申命記三十四卷九章
- 十四 申命記三十四卷九章
- 十五 申命記三十四卷九章
- 十六 申命記三十四卷九章
- 十七 申命記三十四卷九章
- 十八 申命記三十四卷九章
- 十九 申命記三十四卷九章
- 二十 申命記三十四卷九章
- 二十一 申命記三十四卷九章
- 二十二 申命記三十四卷九章
- 二十三 申命記三十四卷九章
- 二十四 申命記三十四卷九章
- 二十五 申命記三十四卷九章
- 二十六 申命記三十四卷九章
- 二十七 申命記三十四卷九章
- 二十八 申命記三十四卷九章
- 二十九 申命記三十四卷九章
- 三十 申命記三十四卷九章
- 三十一 申命記三十四卷九章
- 三十二 申命記三十四卷九章
- 三十三 申命記三十四卷九章
- 三十四 申命記三十四卷九章
- 三十五 申命記三十四卷九章
- 三十六 申命記三十四卷九章
- 三十七 申命記三十四卷九章
- 三十八 申命記三十四卷九章
- 三十九 申命記三十四卷九章
- 四十 申命記三十四卷九章
- 四十一 申命記三十四卷九章
- 四十二 申命記三十四卷九章
- 四十三 申命記三十四卷九章
- 四十四 申命記三十四卷九章
- 四十五 申命記三十四卷九章
- 四十六 申命記三十四卷九章
- 四十七 申命記三十四卷九章
- 四十八 申命記三十四卷九章
- 四十九 申命記三十四卷九章
- 五十 申命記三十四卷九章

野にをるアラビヤ人の爲すごとく、路に坐して、汝、人、を、ま、て、り、汝、ハ、汝、途、と、思、へ、も、て、此、地、を、汚、せ、り、この、故、お
 雨、と、い、ふ、め、ら、れ、春、の、雨、に、よ、ら、ざ、り、し、然、れ、で、汝、娼、妓、の、額、わ、れ、を、背、て、恥、ず、汝、い、ま、よ、り、我、を、呼、び、て、い、さ、ら、ん
 や、我、父、よ、汝、之、わ、が、少、問、の、交、友、か、り、窮、途、を、含、ま、ん、や、恒、お、お、之、を、存、た、ん、や、と、祝、ひ、か、く、い、へ、ん、ぞ、力、
 を、き、め、て、惡、を、爲、す、なり、ヨ、セ、王、の、と、エ、ホ、バ、い、た、我、お、い、ひ、給、ひ、ける、ハ、汝、ら、む、け、る、エ、ホ、バ、い、の、な
 せ、し、と、見、し、や、彼、の、さ、つ、て、の、高、山、お、ば、ら、ず、て、の、青、木、の、下、に、ゆ、き、て、其、處、を、汝、途、を、行、へ、り、彼、の、さ、つ、
 べ、て、の、事、を、爲、せ、し、の、お、我、か、れ、お、汝、れ、に、歸、れ、と、言、ひ、か、ぞ、も、れ、お、歸、へ、ら、ざ、り、き、其、時、れ、る、娼、妓、さ、る、エ、ホ、バ、い、之、
 を、見、たり、我、お、言、へ、る、エ、ホ、バ、い、汝、途、を、な、せ、し、に、よ、り、我、か、れ、を、出、し、て、離、縁、を、わ、た、て、た、れ、ど、の、時、れ、る
 娼、妓、な、る、エ、ホ、バ、い、懼、れ、ず、し、て、往、て、汝、途、を、行、ん、我、を、見、る、汝、ハ、其、汝、途、の、隙、を、も、て、この、地、を、汚、し、且、つ、石、と、
 木、に、汝、途、を、行、へ、り、此、諸、の、事、わ、る、も、仍、其、時、れ、る、娼、妓、な、る、エ、ホ、バ、い、眞、心、を、も、て、我、お、か、へ、ら、ま、偽、ら、れる、の
 みて、エ、ホ、バ、い、ひ、た、ま、ふ、エ、ホ、バ、い、た、我、お、い、ひ、た、ま、ひ、ける、ハ、背、け、る、エ、ホ、バ、い、情、れ、る、エ、ホ、バ、い、も、も、自、己、涙
 義、と、す、汝、ゆ、き、て、北、に、む、か、ひ、此、言、を、宣、へ、い、ふ、し、エ、ホ、バ、い、ひ、た、ま、ふ、背、け、る、エ、ホ、バ、い、離、れ、た、れ、が、怒、の、面
 を、汝、ら、お、む、け、じ、わ、れ、ハ、君、恤、わ、る、者、な、り、怒、を、限、か、く、含、み、を、る、こ、と、わ、ら、し、エ、ホ、バ、い、ひ、た、ま、ふ、汝、た、ま、汝、の
 罪、を、認、め、せ、ら、う、汝、の、神、エ、ホ、バ、い、に、ら、む、き、經、め、り、て、す、べ、て、の、青、木、の、下、に、て、異、邦、人、に、ゆ、き、汝、等、が、禮、を、き、か
 ざ、れ、バ、な、り、と、エ、ホ、バ、い、ひ、給、ふ、エ、ホ、バ、い、ひ、た、ま、ふ、背、け、る、衆、子、よ、我、に、か、へ、ろ、ハ、汝、等、を、毀、れ、バ、な、り、わ
 れ、邑、よ、り、一、人、支、派、よ、り、二、人、を、取、り、て、汝、等、を、シ、オ、ン、に、つ、れ、お、か、ん、わ、れ、我、心、に、合、い、收、者、を、汝、等、に、お、た、へ、ん
 彼、等、ハ、知、識、と、明、哲、を、も、て、汝、等、を、養、ふ、べ、し、エ、ホ、バ、い、ひ、た、ま、ふ、汝、等、地、に、増、して、多、く、お、ら、ん、と、エ、ホ、バ、い、復、
 ホ、バ、い、の、誓、約、の、權、と、い、ふ、を、想、ひ、い、て、す、之、を、憐、れ、ず、こ、れ、を、尋、ぬ、ず、こ、れ、を、作、ら、ざ、る、べ、し、の、時、ニ、ル、サ、レ